



修学旅行2 時々するのは・・・



早朝6時50分にバスが学校を出発して間もなく、担任のN司先生がマイクを握り、子ども達に話しかけた。

「これから2日間、運転手さんには大変お世話になります。」

そう話すN司先生の声が、心なしかいつもより朗々と響き渡っているような気がした。子ども達の修学旅行の興奮に感化され、N司先生の心もきっと弾んでいるのであろう。さすが、担任ならではである。

「では、皆で一緒にご挨拶をしましょう。」

・・・うん？。どうも何か違う。いつもこんな話し方だったっけ・・・

「よ～ろ～しく～ お願い～し～ま～す～」

おお、なんと、なるほど、そうであったか。気がついてしまえば、そんなこともあろうかと納得もいくのである。

自治会の親睦旅行などではバスの中で宴会も繰り広げられることであろう。当然カラオケ大会などに発展することも決して希ではあるまい。

———— N司先生の握るマイクには、見事なエコーがかかっていた。

そんなことはさておき、運転手さんへの挨拶が終わった後、早速に用意していたバスレクが始まった。

トップバッターはO愛さん達女の子。CDの曲に合わせて歌い出した。

「いや～、歌と一緒にダンスも見たいなあ。」

と、O愛さんに声をかけると

「バスの中では、踊ってはいけません。」

と。それは、そうです。



1曲目が終わると、続けてCDの2曲目がかり、3曲目へと続き、気がつくともCD1枚分歌い上げていた。さすが“アイドル係”の本領発揮である。

「踊ってはいけない」と言いながらも、O愛さんの膝や踵が座ったまま自然にリズムを刻みずっと動いていたことも、ここに記しておくべきであろう。

そして、もうひとつ。

マイクのエコーは、なぜか消えていた。

「今でしょ。」

と、誰かが叫んだ気がした。

次の出し物は、H太くんによるクイズである。O愛さん達の底知れぬパワーにやや圧倒されていた車内には、正統的ともいえる出し物の登場に、なんとなくほっとした雰囲気流れた。

「冬に食べても夏というお菓子は何でしょう？」

「ドーナツ。」

これまた、実に正統的な答えで、皆ますます心穏やかに次の出題を待った。そんな空気を読んだかのように、H太くんが、心地よいテンポでクイズを読み上げた。

「食べると座ってしまうガムって、どんなガムでしょう？」

これには、皆、少し頭を悩ませ、なかなか正答がでてこない。ここでも、H太くんはその場の状況を的確に判断し、ヒントを出した。

「皆が、時々、たまにすることです。」

なるほど、お菓子のガムではなくて、何か人の行動に関係するようなものであろう。答えは、確実に絞られていった。そして、一人の男の子が、確信したように

「はいっ！！」と手を挙げた。

「では、S太くん。答えをどうぞ。」

「勉強。」

.....

正しい答えは「しゃがむ」だった。

S太くんは毎日宿題をするし、自主学习だってコツコツがんばっている。